

あぷり八尾都塚 副施設長

有川 聡史



まったくの異業種から介護業界に飛び込み、株式会社あぷりに入社した有川聡史さん。今日までの道のりは、一体どのようなものだったのでしょうか。これまでの経歴を振り返るとともに、今後の目標に迫りました。

好成績を収めながらも……

社会人としてはじめて携わった仕事は、アパレル企業で使用される紙袋や包装資材の営業活動でした。ルート営業と新規開拓を合わせて30社を担当し、入社1年目のノルマであった新規開拓10件を無事達成しました。

その後、さらなるステップアップを目指して足を踏み入れたのはブライダル業界です。ドレス販売の関連業務からウェディングプランナーに転身し、圧倒的に女性が多い世界で数少ない男性プラン

ナーとして活躍。数字でトップに立つという強い決意を持ってお客様に向き合い、新規成約率70パーセントという実績を残しました。2年連続でトップの成績を収め、支配人に就任。管理業務を行うかたわら、みずからも接客を行い、プレイングマネージャーとして売上に大きく貢献しました。

こうした華々しい道のりを歩みながらも、有川さんの心は晴れませんでした。毎日数字に追われ、休日も心が休まる瞬間はありません。売上や利益を上げて、自分には一体何が残るのか。そんな思いが胸の中で膨らんでいきます。結婚式場を離れ、ブライダルを扱うレストランに活躍の場を移しても違和感はぬぐえません。ここで転機となったのが、新型コロナウイルスの感染拡大です。経済は深刻な打撃を受け、ブライダル業界も測り知れないダメージを負いま

した。有川さんの勤めるレストランも、ブライダル事業からの撤退を決断。これを機に、転職活動に踏み切ったのです。

介護との出会い

人材紹介会社から、「すぐく勢いのある、元氣な会社ですよ」と紹介されたのが、あぷりでした。営業活動に主軸を置いていた有川さんにとって、突如目の前に現れた介護業界は未知の世界。ですが、面接を受けてみると、三宅社長や長田施設長の考えに共感できる部分が多かったのです。

「お一人お一人の方と向き合うという点で、介護とブライダルは通ずる部分があります」。そんな言葉をかけられ、ハッとしました。自分が培ってきた知識や経験を活かせるかもしれない。そう思うと、会社への関心はどん

どん高まっています。社長や施設長の丁寧な物腰にも強く心を惹かれました。「この人たちと一緒に仕事してみたい」と感じ、2020年8月、有川さんはあぷりの一員となりました。

サービス業としての介護

2021年3月1日にオープンを迎えたあぷり八尾都塚。その副施設長として新たな一歩を踏み出す有川さんは、建物の完成まで3か月ほどあぷり八尾太田で研修を受けました。はじめて目にする介護の現場に、戸惑いや不安がなかったわけではありません。ですが、職員や利用者様と過ごすうちに、面接でかけられた言葉がストンと胸に落ちるような感覚があり、不安は見える見るうちに小さくなりました。

忘れたくないのは「サービス業

としての目線」。利用者様と積極的なコミュニケーションをとり、心から満足してもらえるサービスを提供できるよう、力を惜しまないつもりです。サービス業としての視点を加えることで、あぷりの介護に他社とは一線を画する付加価値が付き、会社自体もさらなる飛躍を遂げるはずだと考えています。ブライダル業界で培ってきた知識や経験を存分に活かしてあぷりの成長に貢献できれば、それに勝る喜びはないのです。

さらなる高みへ

職場を離れれば、2児の父としての顔を持つ有川さん。あぷりに入社してからというもの、帰宅後に売上で頭を悩ませることはなく、子どもたちとのコミュニケーションが増えました。転職にともなう喜ばしい変化のひとつ



です。また、小学生の娘は空手を習っていて、娘の送迎をするうちに自身も道場に通うようになりました。体を動かしてストレスを発散し、新たな気持ちで仕事に臨み、メリハリのある毎日を送っています。

サービス業の視点を持って現場に立つ有川さん。異業種の経験は、あぷりの未来に欠かせないものとなるでしょう。